

## 北鎌尾根から槍ヶ岳へ (2011/9/9-9/11)

私が最後に槍ヶ岳の頂上を踏んだのは昭和 44 年 3 月 20 日であった。時あたかも学園紛争の真只中で、学内が荒れて卒業式も中止された時の春山であった。一緒に入山する筈だった山本光明さん(137)が急に不参加となり、止む無く私は単独で新穂高温泉から入山して、烏帽子から裏銀座を縦走してきた和田リーダーの合宿に双六小屋で合流し、槍ヶ岳登頂後槍沢経由で上高地に下山した。

今回の 42 年振りの槍ヶ岳登山は、現役時代に叶わなかった北鎌尾根を和田さんと共に迎えることにした。安全第一を念頭に、妙義山でロープワークの練習を事前に行ない、好天を選んで日程を決めた。

部報 5 号によると、昭和 31 年夏に、増永迪男(17)、大村文(21)、佐々木威(31)、永野淳三(34)の先輩諸氏 4 名は、剣岳から槍ヶ岳を縦走して一旦上高地に下山した後、再び葛温泉から入山して北鎌尾根経由で槍ヶ岳に登り双六谷を下って神岡に抜けている。このときは、サブザックで千天出合いから尾根に取っ付き、P1 から忠実に尾根を辿って槍ヶ岳に登頂後、再び東鎌尾根から天上沢に下って千天出合いのテントサイトまで周回している。これを 1 日行程でこなしているであるから、現役時代とはいえ驚くべき馬力である。

一方、64 歳の我々のルートは、上高地から入山して槍沢を遡り、大曲から水俣乗越を経由して天上沢を下り北鎌沢出合にて一泊し、翌日北鎌沢から北鎌尾根に取っ付いて槍ヶ岳に向かう 2 泊 3 日の実働行程で計画した。

◎ **メンバー**： L 青景平昌 (143 : 記録、写真)、和田穰二 (149 : GPS)

◎ **日程**：2011 年 9 月 9 日 (金) ~ 2 月 11 日 (日)

9 月 9 日 (土) :

上高地バスターミナル発⇒横尾⇒槍沢ロッジ⇒大曲⇒水俣乗越⇒  
⇒北鎌沢出合 (泊)

9 月 10 日 (日) :

北鎌沢出合⇒北鎌沢のコル⇒天狗の腰掛⇒独標トラバース  
⇒P13 と P14 の間でテント泊

9 月 11 日 (月) :

テントサイト⇒北鎌平⇒槍ヶ岳⇒横尾⇒上高地バスターミナル⇒横浜

9 月 9 日 (土) (曇り時々雨) : 新宿都庁バス駐車場発 (23 : 00) さわやか信州号⇒(5 : 30) 上高地バスターミナル (6 : 15) ⇒(7 : 15) 明神館 (7 : 35) ⇒徳沢園 (8 : 30) ⇒ (9 : 30) 横尾 (9 : 50) ⇒ (11 : 25) 槍沢ロッジ (11 : 40) ⇒馬場平 (12 : 15) ⇒大曲 (12 : 55) ⇒(14 : 25) 水俣乗越 (14 : 40) ⇒(16 : 35) 北鎌沢出合 テント泊

入山前夜、仕事を終えて会社から新宿の都庁大型バス駐車場に向かい和田さんと合流した。ここから 23 時発の上高地直行の夜行バス（さわやか信州号）に乗り、中央高速を経由して、早朝 5 時半に上高地バスターミナルに着いた。マイカーの場合には、沢渡の駐車場でシャトルバスに乗り換えて上高地に入らねばならない。初めて乗った直行夜行バスであったが、乗り換え無しで早朝に上高地に入れることは極めて都合がよい。6 時から営業を始めた荷物の一時預り所に下山時の荷物を預けて、6 時 15 分に横尾に向けて出発した。

ガスが低く垂れ込めて今にも泣き出しそうな空模様を気にしながら出発したが、案の定、河童橋まで歩く間に雨が降り始めてしまった。雨支度をしっかり整えて再出発する。今回の登山は、北鎌尾根を辿るのが狙いであるが、初日の北鎌沢出合までの行程を無難にこなすことが前提である。天候の先行きは心配であったが、回復することを信じて、雨の中、北鎌沢出合を目指す。このルートは実に 42 年振りである。地図と地形を見比べながら、車道もどきの大きな水平道を黙々と歩く。

横尾小屋には 9 時 30 分に着いた。山地図の標準タイムと比べても遜色ないスピードに一安心である。ここから槍沢の森林帯に分け入り、やっと登山道らしくなる。槍沢ロッジには 11 時半に着いた。休憩中に雨が一段と激しくなり、雨宿りに飛び込んできた中高年の団体客でごった返していた。

槍沢ロッジが管理しているテン場はさらに 30 分ほど上流のババ平にあった。岩で覆った避難小屋の近くに 3 張程のテントがあった。ここからさらに左岸を上流に向かうと、槍沢のカールの喉元に出て、大きく右側にカーブする。ここが大曲で、水俣乗越へ道が右折し分岐している。水俣乗越までは 400m 程度の急登である。途中、下山してくる外国人を連れた二人連れに会ったが、これを最後に北鎌沢出合まで誰にも会うことはなかった。



写真-1 雨の河童橋



写真-2 水俣乗越から深い草付き下る



写真-3 巨礫で埋まった天上沢を下る

水俣乗越には表銀座の立派な登山道が南北に走っている。我々は、これを横断して、天上沢に続く草付きの斜面を下る。身体が隠れる程の深い草の陰に踏み跡が残っており、草を押し分けながら下っていった。天候は回復し雨の心配はなくなったが、明るいうちに北鎌沢の出合に着いて、明日のルートを確認しておくために、青景が先を急いだ。

水俣乗越に分岐した沢には殆ど流水はなかったが、天上沢本流と合流する地点では、傾斜は緩くなる一方で、流量がかなり増えきた。

北鎌沢の出合には、先着の二人ずれの先客がテントを設営していた。聞けば、中房温泉から大天井経由で貧乏沢から到着していた。

北鎌沢は、出合からコルに向けて真直ぐに伸びる狭い沢で、若干の流水があった。この沢の出会いにテントを設営し、荷物を整理している頃、和田さんが到着した。その後、水俣乗越側から2パーティーが順次到着した。



写真-4 北鎌沢の出合(テントサイト)

9月10日(日)(快晴):起床(3:00)⇒テントサイト発(5:00)⇒(7:50)北鎌沢コル(8:50)⇒(10:15)天狗の腰掛(10:30)⇒(11:35)独標基部(12:00)⇒独標トラバース完了(13:45)⇒P13(14:25)⇒(16:20)テントサイト(P13とP14の間)

槍ヶ岳に登頂して肩ノ小屋に一日で抜けるのが一般的な行程である。我々もその予定で、張り切って3時に起床した。満天の星であるが、真っ暗闇で地形もルートも正確に把握できないので、明るくなるまで待った。5時出発の我々が一番早かった。昨日の午後には雨が上がったため、天上沢の水量は一夜にして激減し、昨夜水を汲んだ所は干上がってしまった。北鎌沢の水もどこで汲めるか不明であり、北鎌尾根の途中で泊まることを想定して、出合から各自4リットルの水を担ぐことにした。北鎌沢は岩を階段上に積み上げた狭い沢で、その右俣はP7とP8のコルまで真直ぐ伸びている。水



写真-5 北鎌沢右俣を直登

の重みで、荷は昨日より重くなっている。入山の疲れが残っているためか、和田さんの調子がでない。北鎌沢のコルに到着するまでに、他の3パーティーには一気に追い抜かれてしまった。北鎌沢の通過に2時間を予定していたが、倍近くの時間がかかってしまった。今日中の槍ヶ岳の登頂はもはや絶望的となるが、昨日とは打って変わって快晴には恵まれた。目の高さに水俣乗越が見え、千丈沢側には硫黄尾根が黄金色に光っていた。

北鎌沢のコルから草付きやハイ松の中の踏跡を辿って、目の前がぱっと開けて独標が飛び込んでくる。ここが天狗の腰掛(P8)で、ほぼ水平な岩棚地形(P9)の向こうに独標基部があり、そこに先行パーティーが見え、話し声も風に乗って聞こえた。

天狗の腰掛にも、独標の基部にも野営跡が残っていた。いざとなれば、ビバーク地点は随所にありそうだ。独標基部に着いたときには、先行パーティーはトラバースを終えようとしていた。

我々も、千丈沢側をトラバースする。基部から下側に回りこむ踏跡があったので、それが辿って下降していったが、途中の岩陰で踏跡は消えていた。

改めて、基部まで引返して、稜線に向けて登ってゆくと踏跡に合流した。トラバースの始点には、張り出した岩を抱きかかえるように緑色のフィックスロープがセットされていた。踏跡を辿ってトラバースす



写真-6 北鎌沢コルから水俣乗越の遠望

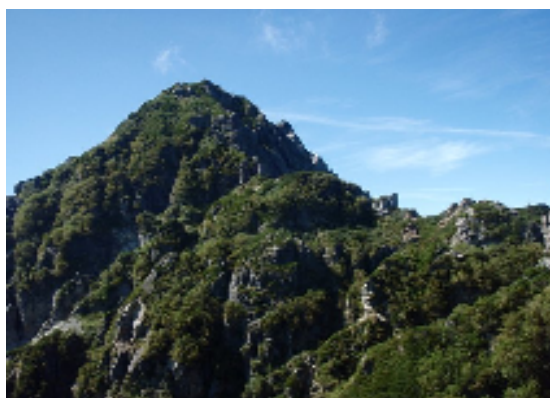


写真-7 天狗の腰掛から独標(P10)を望む



写真-8 独標(P10)の基部に到達



写真-9 独標(P10)のトラバース斜面

る。途中、スリングが残置されているリスでは、それを乗り越えるのに初めてザイルを使用した。

独標を巻いて稜線へ登っていると、後ろから人声が聞こえた。振り返れば、隣の尾根を二人連れのパーティーが後続していた。我々とは別のルートで独標を巻いていた。最終的には我々に合流して追い抜いて行ったが、聞けば仲房温泉から貧乏沢経由で来たという。すでにテント設営箇所をどこにするかを気にしながら先を急いで去っていった。もはや、我々が確実に最終パーティーとなってしまった。和田さんの調子は相変わらずで、二、三歩進んでは呼吸を整えている。

P11 から千丈沢側に派生している尾根を乗り越えると、初めて大槍と子槍が遥か先に現れた。目の前には、P12から千丈沢側に派生している穴あき岩の尾根があった。ここからは稜線もしくは千丈沢側の踏跡を忠実に辿った。P12から下降する箇所にスリングが残っていたので、ここでもザイルを使用した。P13を越えるとP14が覆いかぶさるように行く手を遮っている。ここには野営跡がいくつかあった。我々はP14の手前で千丈沢側に突き出た台地の上の野営跡に泊まることにした。人っ子一人いない静寂と邪魔のない展望を備えた素晴らしい野営地であった。中秋の名月を二日後に控えた月明かりは、夜目にも遠く鷲羽岳や水晶岳等を見渡すことができ、思いがけず月明かりの景色を堪能する幸運に巡り合った。



写真-10 独標(P10)のトラバース



写真-11 P11 付近からの槍ヶ岳



写真-12 テントサイトからP12を望む

9月11日(月)(快晴):起床(3:00)⇒テントサイト発(5:00)⇒(5:32)ご来光⇒(6:20)北鎌平付近(6:35)⇒(7:10)ベルクハイルの銅版⇒(8:25)槍ヶ岳頂上(8:45)⇒肩の小屋(9:00)⇒大曲(10:40)⇒槍沢ロッジ(11:15)⇒(12:30)横尾(12:50)⇒徳沢園(13:40)⇒(14:40)明神館(15:00)⇒(15:35)上高地バスターミナル(16:00)⇒(16:55)島々(17:25)⇒(18:05)松本(18:35)⇒(20:35)八王子着

3時に起床すると、双六方面の空に夕日のごとく輝きながら月が沈もうとしていた。今日も好天である。リヒトで足元を照らしながら出発する。目の前のP14は稜線を直登する。P14を越えた処でご来光を拝むが、明るくなると踏跡もはっきりしてきた。P15のピークを千丈沢側に巻いて、北鎌平の手前のコルにでる。次も北鎌平の千丈沢側を巻いて、階段状に積み上げた大きな岩の急斜面を登って稜線にでると、北鎌平はすでに通り越して下に見えた。穂先につながる稜線を意識して直登すると、途中に「Berg Heil 穂先は近い 気を抜かずに頑張れ 1972.10.20」の銅版が現れる。ここから千丈沢側にトラバース気味に登っていったが、途中浮石の多い斜面に迷い込み現在地が分からなくなってきた。トラバースを止めて直登すると、左手にスリングの付いたチムニーが見えるバンドに辿り着いた。ザイルを使用してこのチムニーを越えると大きなバンドがあり、これを槍沢側に回りこむと頭上に木杭が見えた。ここには

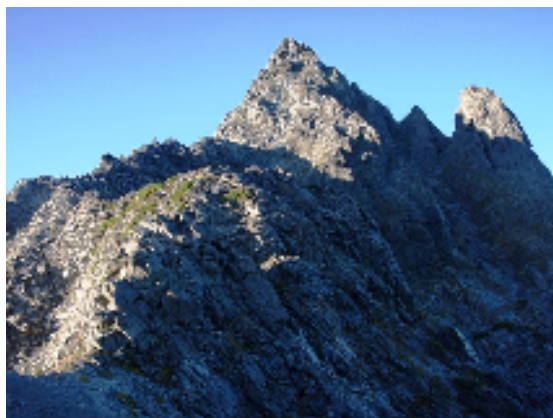


写真-13 P15 付近からの北鎌平と槍ヶ岳



写真-15 独標を背に穂先に向かう



写真-14 北鎌平付近からの槍ヶ岳



写真-16 最後の登り



写真-17 槍ヶ岳頂上にて

はっきりとしたトレースがあり、下を覗き込むとハーケンが残っており、主稜線に繋がっている。殺生ヒュッテやヒュッテ大槍の赤い屋根が眼下にあった。どうやら、銅版から穂先に向けて直登するのが正解のようだ。木杭から少し登ると、岩の間から頂上にいる登山者の頭が認められた。頂上に顔を出すと目の前に祠があった。42年振りの穂先で、和田さんとは感激の握手である。眼下に、肩ノ小屋があり、その向こうに笠があり、まさに360度の大展望である。頂上で食事をして、槍沢経由で上高地に向かう。上高地バスターミナルに預けた荷物の受け取りが17時までとなっていたので、年甲斐もなく一目散に先を急いだ。

後日、我々64歳のこの挑戦を吹聴していたら、広島のお古川雅之さん(181)から我々の1週間後に同じルートを登ったとの連絡があった。

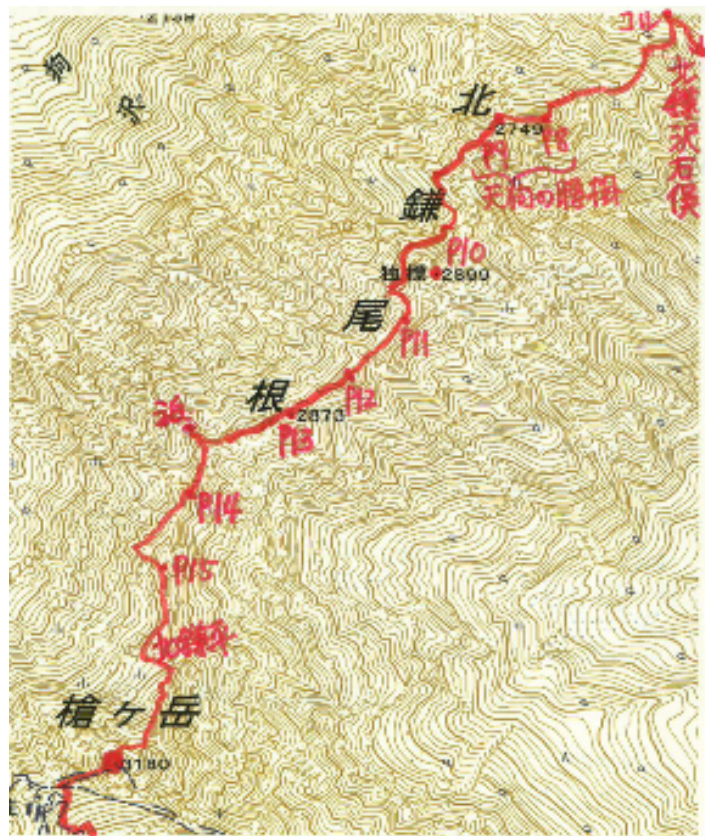


図-1 北鎌尾根のGPSトレース図

以上 (記 青景)